

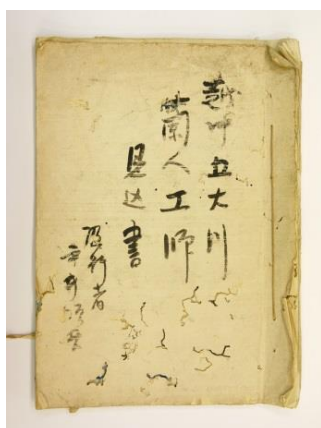
黒部市歴史民俗資料館 第13回特別展「黒部川の洪水・治水のあゆみ」紹介 No.5

ムルデル（オランダ人工師）は、富山県が誕生した明治16年8月に約1ヶ月間にわたり庄川・常願寺川・早月川・布施川・黒部川などの河川を調査しました。黒部川の調査では、三日市村の平井順吾が案内し、調査後の9月13日に復命書『越中五大川蘭人工師見込書』が内務省土木局長石井省一郎へ提出されました。復命書の提言は、川の上流域での焼畑をやめること、用水の合口化、急流河川の洪水を防ぐため河口部の排水を良くすることなどでありました。

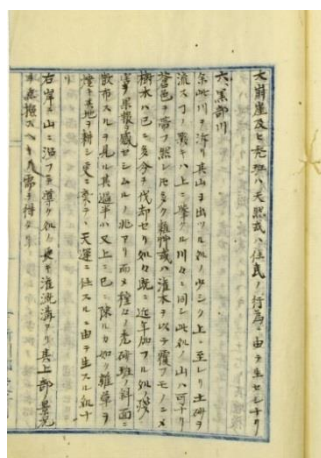
『越中五大川蘭人工師見込書』は、ムルデルが富山県各河川の実況を調査した復命書の日本語訳です。上流山林の伐採禁止や、焼畑農業の禁止など厳しい内容です。

表紙は、「越中五大川蘭人工師見込書 随行者 平井順吾」とあり、表紙をめくると第1ページには「明治十六年八月越中ノ五大川巡回實地検査見込上申書」中央に「蘭人工師 アー、テー、エルローウェンホルストムルトル復命書」とあります。

制作：明治16年9月、本文：26枚、富山県立山カルデラ砂防博物館所蔵



（『越中五大川蘭人工師見込書』表紙）



（『越中五大川蘭人工師見込書』黒部川）